

スーパーグローバル大学創成支援事業検証部会（第1回）要旨

1. 日時 令和5年1月18日（金）10時00分から12時00分までの間
2. 場所 文部科学省16F1会議室及びオンライン
3. 議事概要

（1）スーパーグローバル大学創成支援事業の成果に関する検証部会の設置について

- ・事務局より資料1-1及び資料2に基づき、スーパーグローバル大学創成支援事業が令和5年度をもって補助事業を終了することに伴い、事業全体を通して得られた優れた成果・取組の蓄積・横展開も含めた成果の十分な検証を行い、これを踏まえた今後の我が国の大学の更なる国際化に求められる課題等について検討を行うため、スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会の下に、有識者で構成される本検証部会を設置する旨の説明があり、これを了承。
- ・事務局より資料1-2に基づき、本検証部会の審議内容については、令和6年度実施予定の同事業の事後評価への影響を勘案し非公開とする旨等の説明があり、これを了承。

（2）論点整理

- ・委員による意見交換がおこなわれた。委員による発言の概要は以下のとおり。

- 国外の優秀な人材と働ける柔軟な真のグローバル人材としての日本人を育成する必要があり、SGUを中心に採択校以外の大学の学生も引っ張るプログラム等、日本の全体的な底上げにつなげなければならない。また、自国の若者だけではなくて世界の若者に開かれる大学であるということが重要である。
- SGU 大学の画期的な教育・研究プラットフォーム作りにおいて、それ以外の他大との連携を強く意識した方が良い。
- 世の中には日本ファンが結構多い。例えば、医学やサイエンスを勉強するにしても、「何で日本知っているの？」というのはマンガがきっかけというケースが多い。そういうきっかけづくりをもっと大切にすることも一つ。SGU が、日本が好きでやって来る留学生が日本に残り、次に日本のアンバサダーになっていくというような優秀な外国人材を定着させるプラットフォームになればと思う。
- 留学生の日本への定着には、留学生の就活やインターシップチャンネルが十分できていないことが問題である。しっかりとした長期インターンシッププログラムを作り、日本に残るチャンスが与えられるのが重要。本気で日本にやって来る日本のファンが日本に残ることがいろいろな意味で大事である。
- 日本の学生が海外に行かない理由は、帰国後にその価値が生かせないと思う人が多いからではないか。自分のスキルを生かすような形での次のパスウェイをつくっていけることが重要。そのためにも企業や自治体等との連携を深めることは課題である。
- SGU の貢献について、特に SGU タイプ A では、国際共同研究の推進とか研究力

- の推進も非常に重要な側面であったのではないか。また、大学の組織改革の部分の指標もあり、国際的な通用性を高めるという観点からは非常に意味があった。
- 今、日本の科学技術系の論文の数と質の両方が相対的にもどんどん落ちており、研究力を上げなくてはならない日本にとっては、SGU における頭脳循環は重要である。
 - 研究レベルが高くて研究をしに行きたい、あるいは、ダブルディグリーや他大学との連携環境が整備されているから行きたい、といった全世界から留学生を誘致できる環境づくりが重要である。
 - SGU の取り組み自体は地方都市にとって非常に大きな影響があり大変成功していることは間違いない。その上で、留学生をケアする大学内のマンパワーは圧倒的に足りていない。
 - 経済面でいうと、地方都市だと国内の企業が直接に留学生を雇う機会がなく、なかなかゲームチェンジが起きない状況がある。しかし、大学のグローバル化が進み多くの外国人が来ると、地域の経済にとってのゲームチェンジになるのではないか。
 - 大学をハブとして地域に優秀な人材や研究者が来て、グローバルな魅力ある自然環境などを生かしながら地域で優秀な研究をしてもらう。ローカルであってもそうしたハブとなれる環境整備が地方創生にとって非常に良い。
 - 留学経験者の就職のディスアドバンテージは非常に大きな問題。一方、実は企業は春に一括採用して終身雇用するという形態から、ジョブ型雇用、専門能力で給料が決まるような通年採用にシフトしてきていることを大学内でもアピールしてもらえるとよい。
 - 短期留学について、長期と短期でどちらがいいかというところ当然、長期の方が良いが、短期には短期の良さがある。また、コストパフォーマンスで見た場合には、短期というのはある程度評価して政策の手段にしていくべき部分ではないか。また、長期への呼び水、短期と長期の組み合わせ、オンラインと短期を組み合わせで学位プログラムにつなげていく、といったことも出てくると思うので、施策としては短期・長期ということだけではなくて、それらをどう組み合わせながら国際化を進めていくこが重要なのではないか。
 - 組み合わせということでは、COIL の活用もある。せつかくこれだけオンラインが進み各大学全て準備も整っていると思われるので、大学アンケート結果にあったような組み合わせも、ぜひ複線化という意味では入れればよいと思う。

(以 上)